

甲 第 号

古市 康子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	今村 知明
論文審査担当者	委員	教授	岸本 年史
	委員(指導教員)	准教授	野上 恵嗣

### 主論文

Assessment of self-/parent-reported quality of life in Japanese children with haemophilia using the Japanese version of KIDSCREEN-52.

日本における小児血友病患者の日本語版 KIDSCREEN-52 を用いた QOL の自己評価および保護者による評価

Yasuko Furuichi, Keiji Nogami, Koji Yada, Satoko Nezu, Kenji Obayashi, Keigo

Saeki, Norio Kurumatani, Mitsuru Nakajima, Seiji Kinoshita, Midori Shima

Haemophilia. 2020 Mar;26(2):243-250. doi: 10.1111/hae.13945. Epub 2020 Feb 24.

## 論文審査の要旨

本研究において健康関連 QOL を国際的に使用されている包括的 QOL 評価の KIDSCREEN-52 を日本の文化慣習にアレンジした J-KIDSCREEN-52 を用いて小児血友病患児および保護者の両面から評価することができたことは非常に有意義である。血友病患児が低年齢の方が保護者の不安は強く、多領域にわたり児を過小評価していること、年齢が上がると疾患理解が高まり両者に差はないことは示唆に富む結果である。

その中でも標的関節あり群は身体的・心理的のみならず社会的 QOL の低下も認め、予定外の出血あり群で親子関係の QOL 得点が低下していた。

また血友病治療も一種のパラダイムシフトをきたしており、今回の研究は将来的な新時代の血友病医療に貢献することが十分考えられる。

公聴会においては、J-KIDSCREEN で大人と子供への質問の際の留意点について問われ、短時間で直感的に聞く形式なのでブレが少ないなどとのやり取りがあった。

今後の治療の評価にあたり J-KIDSCREEN を用いて血友病児やその家族の視点からの主観的 QOL を評価できることは有用で、血液学また小児科学の発展に貢献する研究である。

公聴会における質疑も適切であり学位を授与するに相応しい研究と考える。

## 参 考 論 文

1. Psychiatric adverse reaction to non-steroidal anti-inflammatory drugs in a child.  
Masaaki Doi, Mariko Seki, Yasuko Furuichi.  
Pediatr Int. 2019 Jul;61(7):730-731.
  
2. Reliability and validity of Japanese versions of KIDSCREEN-27 and KIDSCREEN-10 questionnaires.  
Satoko Nezu, Hidemi Iwasaka, Keigo Saeki, Kenji Obayashi, Rika Ishizuka, Hideyo Goma, Yasuko Furuichi, Norio Kurumatani.  
Environ Health Prev Med 21:154-163, 2016

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに発達・成育医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年6月9日

学位審査委員長

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史

学位審査委員(指導教員)

発達・成育医学

准教授 野上 恵嗣